

21世紀のMosaicを探せ!

Internet **N**ext Applications

インターネットが自由なネットワークだと言われる理由の1つは、新しいアプリケーションを誰もが開発できる点だ。1993年に開発されたウェブブラウザ「Mosaic」がインターネットを普及させたように、1つのアプリケーションが世界を変えることもある。今回はウェブブラウザ上にデスクトップ環境を実現する「WebOS」を紹介しよう。

第9回

ブラウザから利用できるネットワークコンピュータ

WebOS

www.webos.ne.jp



ブロードバンドが生んだ 新ネットワークコンピュータ

CATVインターネットやADSLなど、ブロードバンドの急速な普及ともなあって、こうした高速環境を活かしたアプリケーションも登場してきている。これまで、ブロードバンド向けのアプリケーションと言えば、音声や動画のストリーミング放送がほとんどだったが、最近増えてきているのが、サーバー側のディスクスペースを仮想のハードディスクとして利用する、ディスクスペースのレンタルサービスだ。ネットワーク上にディスクスペースがあれば、たとえば家と会社で同じファイルを共有できるといったメリットが生まれる。

さらにこの考え方を進めていけば、アプリケーションそのものをサーバー側で動作させる方向へと進んでいくことになる。た

えば表計算のデータだけがネットワーク上にあっても、これを実行できるアプリケーションがパソコンにインストールされていなければ使えないからだ。たとえばメールのような簡単なアプリケーションでは、すでにブラウザからメールを読み書きするウェブメールサービスなどがある。これがワープロや表計算なども使えるようになれば、たとえば出先のインターネットカフェでも仕事ができるようになるだろう。

韓国のラストワン社が開発した「WebOS」は、こうしたウェブアプリケーションをさらに進化させ、パソコンそのものをブラウザから使えるようにするサービスだ。ブラウザからWebOSのURLにアクセスすると、ブラウザ内にパソコンのデスクトップとほとんど同じ環境が再現される。ハードディスクのアイコンをクリックすればファイルが見え、ワープロや表計算などのアプリケーションも動作する。韓国内では

「PCバン」が大流行しているため、こうしたサービスへの需要が高くなっている。

このWebOSは、8月からは日本でもニューズネット社により試験サービスが開始される予定となっている。日本の場合にはパソコンの普及率が高いため、自宅と会社の双方で利用するような状況を想定しているということだ。

WebOS 略歴

- 2000年3月 韓国ラストワン社が、WebOS技術を利用したサービス「@fice」を開始。
- 2000年9月 韓国マイクロソフトとASPライセンスを締結。WebOSでワードやエクセルの利用が可能になる。
- 2001年6月 日本のニューズネット社がラストワン社と提携、日本でのWebOSサービスを開始すると発表。

WebOS を使ってみよう

ウィンドウズ2000の環境を ウェブブラウザで再現

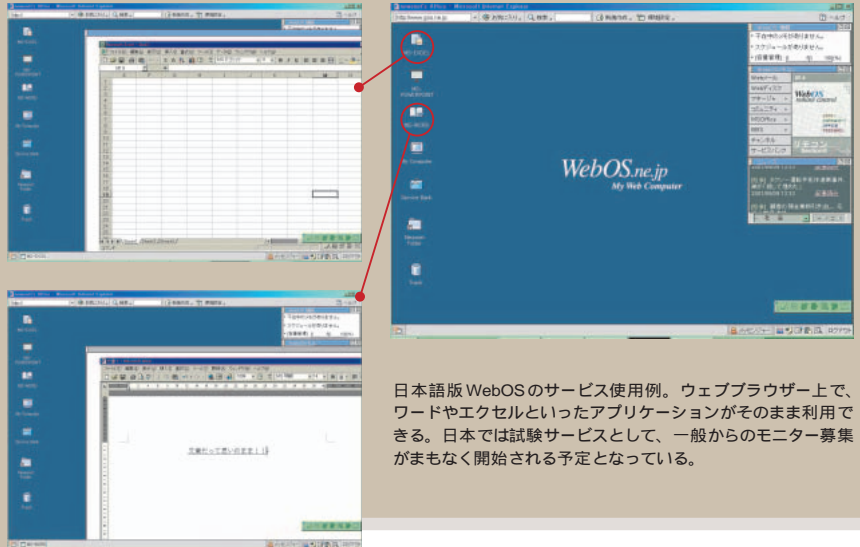
WebOSの仕組みは、ウィンドウズのアプリケーションをサーバー側で動作させる「ウィンドウズターミナル」を応用したのになっている。ウィンドウズターミナルは本来は低スペックのパソコンに専用のクライアントをインストールして、ウィンドウズNTや2000のサーバーにLAN経由でログオンする形のサービスだ。WebOSはこれにウェブサーバー（IIS）とActiveXコントロールを組み合わせて、インターネットを経由してウェブブラウザからウィンドウズのデスクトップが使えるようにしている。

WebOSのサーバーはウィンドウズ2000を使っているため、ウィンドウズで動作するアプリケーションがほとんど使えるというメリットがある。実際に、WebOSではマイクロソフトとのライセンス契約により、ワードやエクセルといったウィンドウズ用のアプリケーションがそのまま使えるようになっている。

新しい可能性を秘めた アプリケーションサービス

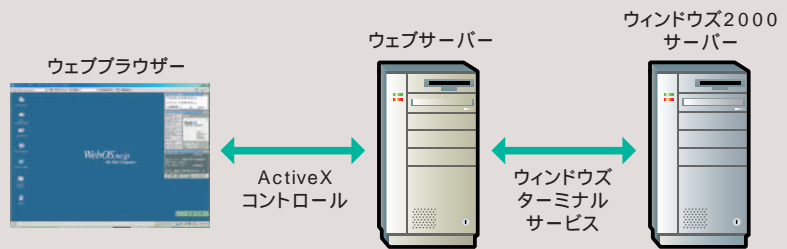
WebOSは、ウェブブラウザさえあればどこでも使える、ネットワーク上のパソコンという新しい概念のサービスだ。しかも、ウィンドウズ上で動くアプリケーションがそのままブラウザから使えるようになるため、その応用範囲はかなり広い。

表計算やワープロといったアプリケーションも、本当にブラウザから使えると便利かどうかは疑問に思う人も多いだろう。こうしたサービスはまだほとんど例がないため、こういったアプリケーションがWebOSで使えると便利なのかはわからないのが現状だ。たとえば、時間のかかる画像処理や、たまにしか使わないソフトウェアなどは、WebOS上で動作させるのに向いているかもしれないが、ユーザー



日本語版WebOSのサービス使用例。ウェブブラウザ上で、ワードやエクセルといったアプリケーションがそのまま利用できる。日本では試験サービスとして、一般からのモニター募集がまもなく開始される予定となっている。

WebOSの仕組み



ウィンドウズターミナルとActiveXの組み合わせのため、ウィンドウズ2000で動作するアプリケーションならばほとんどそのまま利用できる。

が本当に便利だと思えるアプリケーションはまだ不明だ。今回、日本で試験サービスとして開始するのも、そういったニーズを調査するのが主目的となっている。

しかし、ウェブアプリケーションが進化していけば、究極的にはWebOSのようなサービス形態になるのは間違いない。まずは、まもなく開始される試験サービスに申し込んでみて、どのようなアプリケーションが便利かを考えてみるのも、おもしろいのではないだろうか。

DATA

対応OS：ウィンドウズ
95/98/NT/2000
対応ブラウザ：インターネットエクスプローラ5.0以上
推奨環境：Pentium 133MHz以上、メモリー64Mバイト以上

www.webos.ne.jp



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp